

NetCOBOL V10.0.0



リリース情報

Linux

Net  **OBOL**

J2UZ-9401-01Z0(A)
2008年10月

まえがき

本書は、NetCOBOL のリリース情報について説明します。

関連マニュアル

この製品および関連製品のマニュアルには、本書のほかに以下のマニュアルがあります。

- NetCOBOL V10 COBOL 文法書
- NetCOBOL V10 使用手引書
- NetCOBOL V10 COBOL ファイルアクセスルーチン使用手引書
- NetCOBOL V10 例題プログラム
- NetCOBOL V10 メッセージ説明書
- Jアダプタクラスジェネレータ使用手引書
- MeFt V10 ユーザーズガイド
- MeFt V10 メッセージ集
- PowerSORT V6 ユーザーズガイド
- SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル

登録商標について

本書に記載している登録商標を、以下に示します。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

UNIX は、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

X Window System は、オープン・グループの商標です。

Red Hat, RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Intel, Itanium は、Intel Corporation の登録商標です。

2008 年 10 月

Copyright 2005-2008 FUJITSU LIMITED

目次

第 1 章 追加機能の概要	1
1.1 NetCOBOL(FJSVcbl、FJSVcbr)	1
1.1.1 NetCOBOL V10.0 の追加機能概要	1
1.1.2 NetCOBOL V9.1 の追加機能概要	3
1.1.3 NetCOBOL V9.0 の追加機能概要	3
1.2 MeFt(FJSVmeft)	4
1.2.1 MeFt V10.0 の追加機能概要	4
1.2.2 MeFt V9.0 の追加機能概要	5
1.3 Jアダプタクラスジェネレータ(FJSVcblfd、FJSVcbrfd)	6
1.4 PowerSORT(FSUNbsort)	6
1.4.1 PowerSORT V6.0 の追加機能概要	6
1.4.2 PowerSORT V5.0 の追加機能概要	7
1.5 SIMPLIA/COBOL 支援キット(FJSVIncob、FJSVmdprt)	7
第 2 章 互換に関する情報	8
2.1 NetCOBOL 開発環境 (FJSVcbl)	8
2.1.1 翻訳リストの形式変更について	8
2.1.2 insdbinf 使用時のソースプログラムリストの形式変更について	8
2.1.3 障害修正に関する互換情報について	8
2.2 NetCOBOL 運用環境 (FJSVcbr)	14
2.2.1 障害修正に関する互換情報について	14
2.3 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境 (FJSVcblfd)	15
2.4 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境 (FJSVcbrfd)	15
2.5 MeFt (FJSVmeft)	16
2.6 PowerSORT (FSUNbsort)	16
2.6.1 PowerSORT 利用時の環境設定について	16
2.6.2 テキストファイル浮動フィールド指定のキーフィールドについて	16
2.6.3 先入力先出力 (FIFO) 機能について	16
2.6.4 マージ機能について	17
2.6.5 富士通 COBOL ファイルシステムの可変長レコード形式について	17
2.6.6 「+0」と「-0」を表現できるデータ形式について	18
2.6.7 メッセージの出力形式について	18
2.6.8 一時ファイル容量不足時のメッセージについて	19
2.6.9 障害修正に関する互換情報について	19
第 3 章 プログラム修正一覧	23
3.1 NetCOBOL 開発環境 (FJSVcbl)	23
3.2 NetCOBOL 運用環境 (FJSVcbr)	28
3.3 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境 (FJSVcblfd)	30
3.4 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境 (FJSVcbrfd)	30
3.5 MeFt (FJSVmeft)	31
3.6 PowerSORT (FSUNbsort)	33
索引	37

第 1 章 追加機能の概要

ここでは、以前のバージョン・レベルより追加された機能の概要と内容について説明します。

1.1 NetCOBOL(FJSVcbl、FJSVcbr)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.1.1 NetCOBOL V10.0 の追加機能概要

表 1.1 NetCOBOL V10.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V10.0.0	CSV ファイル対応	表計算ソフトやデータベースソフトで用いられている CSV 形式のデータを COBOL で扱えるようになりました。	◆文法書 • 6.4.45 STRING 文 (中核) • 6.4.50 UNSTRING 文(中核) ◆使用手引書 • 21. CSV 形式データの操作
2	V10.0.0	Unicode 機能強化	以下の Unicode 機能をサポートしました。 • UTF-16 • JIS2004 • NSPCOMP オプション	◆文法書 • 2.7 組込み関数機能 • 6.3.3.2 字類条件 • 6.6.12 DISPLAY-OF 関数 • 6.6.30 NATIONAL-OF 関数 • E.8 関数 ◆使用手引書 • A.2.34 RCS(Unicode 環境での日本語項目の扱い) • D.6 組込み関数一覧 • J.3 他システムからの移行上の注意
3	V10.0.0	Micro Focus COBOL 互換強化	以下の Micro Focus COBOL との互換機能をサポートしました。 • 外部ファイルハンドラ	◆使用手引書 • 4.1.1 実行環境 • 6.8 その他のファイル機能 • 6.8.8 外部ファイルハンドラ • E 環境変数一覧

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
4	V10.0.0	int 型 2 進整数データ 項目の集団項目サ ポート	USAGE IS BINARY-CHAR / BINARY- SHORT / BINARY-LONG / BINARY- DOUBLE の各句を集団項目にも指定でき るようになりました。	◆文法書 <ul style="list-style-type: none"> 5.4.3 EXTERNAL 句 5.4.9 REDEFINES 句 5.4.15 USAGE 句
5	V10.0.0	EXIT 文構文拡張	EXIT PARAGRAPH 文および EXIT SECTION 文をサポートしました。	◆文法書 <ul style="list-style-type: none"> 6.4.18 EXIT 文 (中 核)
6	V10.0.0	Interstage List Works 連携	Interstage List Works 連携による電子帳票 出力機能をサポートしました。	◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 7.6 電子帳票出力機 能を使う方法
7	V10.0.0	Windows V10.0.0 NetCOBOL Studio に よるリモートデバッグ	Windows 版 V10.0.0 NetCOBOL Studio を クライアントとしたリモートデバッグ機能をサ ポートしました。	◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 18.2 対話型リモート デバッグの使い方 ◇関連記事 ◆NetCOBOL Studio 使 用手引書 (Windows 版 NetCOBOL がインスト ールされているクライアント PC から参照してくださ い) <ul style="list-style-type: none"> 第 9 章 リモート開発 機能 9.5 リモートデバッグ
8	V10.0.0	ファイル処理	ファイルアクセスルーチンで、ファイルの高 速処理機能をサポートしました。	◆COBOL ファイルアクセ スルーチン使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 3.16.2 ファイルの高 速処理
9	V10.0.0	Symfoware プリコンパ イラとの連携機能	Windows 版 V10.0.0 NetCOBOL Studio を クライアントとしたリモートビルドで Symfoware プリコンパイラとの組み合わせ をサポートしました。	◆NetCOBOL Studio 使 用手引書 (Windows 版 NetCOBOL がインスト ールされているクライアント PC から参照してくださ い) <ul style="list-style-type: none"> 6.1.2 プリコンパイラ 9.3.2.2 プリコンパイラ 連携情報の変更
10	V10.0.0	転記の実行性能改善	長さ 9 バイト以上の英字項目、英数字項 目、日本語項目および集団項目の転記に おいて、実行性能を改善しました。	◆文法書 <ul style="list-style-type: none"> 6.3.5 転記の規則

1.1.2 NetCOBOL V9.1 の追加機能概要

表 1.2 NetCOBOL V9.1 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V9.1L10	集団項目への SYNCHRONIZED 句の指定拡張	集団項目に SYNCHRONIZED 句を書けるようになりました。	◆文法書 ・ 5.4.12 SYNCHRONIZED 句
2	V9.1L10	ダミーファイル機能	入出力文で、実体の存在しない架空のファイル(ダミーファイル)を指定できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 6.8.6 ダミーファイル ◆COBOL ファイルアクセスルーチン使用手引書 ・ “3.16.1 ダミーファイル”
3	V9.1L10	名前付きパイプ	COBOL アプリケーション間でデータを受け渡す場合、中間ファイルの代わりに名前付きパイプを利用して、COBOL アプリケーションを並列に動作させてデータを受け渡すことができるようになりました。	◆使用手引書 ・ 6.8.7 名前付きパイプ
4	V9.1L10	DISPLAY 文のファイル出力拡張	DISPLAY 文の出力先のファイルに、以下を指定できるようになりました。 ・ 既存ファイルへの追加書き ・ ダミーファイル	◆使用手引書 ・ 9.1.7.4 DISPLAY 文のファイル出力拡張機能
5	V9.1L10	ACCEPT 文のファイル入力拡張	ACCEPT 文の入力ファイルに、以下を指定できるようになりました。 ・ ダミーファイル ・ スレッド単位でのファイルオープン指定	◆使用手引書 ・ 9.1.7.5 ACCEPT 文のファイル入力拡張機能
6	V9.1L10	gdb による COBOL アプリケーションのデバッグ強化	gdb を使ったデバッグで、スタックフレームを変更して呼び出し元のデータを表示できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 18.1.5.10 スタックフレームの変更
7	V9.1L10	COUNT 情報ファイルの追加書き	COUNT 情報を既存のファイルに追加出力できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 5.4.2 COUNT 情報
8	V9.1L10	メモリ割り当てサブルーチン	動的にメモリを割り当て/解放するサブルーチンをサポートしました。	◆使用手引書 ・ G.5 メモリ割り当てサブルーチン
9	V9.1L10	プロセス終了サブルーチン	プロセスを強制的に終了させるサブルーチンをサポートしました。	◆使用手引書 ・ G.6 プロセス終了サブルーチン

1.1.3 NetCOBOL V9.0 の追加機能概要

表 1.3 NetCOBOL V9.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V9.0L10	gdb による COBOL アプリケーションのデバッグ強化	COBOL アプリケーションの gdb 向けデータ情報の強化により、より簡単にデータを参照できるようになりました。	◆使用手引書

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
				<ul style="list-style-type: none"> 18.1.5.6 データ(式)の表示 18.1.5.7 データ一覧の表示 ◇関連記事 ◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 5.6.2 障害発生箇所の特定方法
2	V9.0L10	トラブル時の調査機能強化	実行時の環境変数表示機能やメモリチェック機能および異常終了時の core 解析情報出力などの調査機能を強化しました。	◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 5.5 メモリチェック機能の使い方 ◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 5.6.2 障害発生箇所の特定方法
3	V9.0L10	Interstage 連携強化	<p>■Interstage Application Server</p> COBOL 言語による分散システム構築・CORBA アプリケーションの開発および運用ができるようになりました。 <p>■Interstage Business Application Server</p> オンライン系の同期アプリケーション連携実行基盤および非同期アプリケーション連携実行基盤において、COBOL のサーバアプリケーションを開発する際の開発コストを軽減しました。 <p>■Interstage Job Workload Server</p> 高信頼なバッチ業務を構築することができるようになりました。 <p>■Interstage List Creator Connector</p> COBOL 利用者プログラムの帳票出力を、他プラットフォームの Interstage List Manager 経由で帳票印刷できるようになりました。	◆使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 4.3.4 実行時メッセージの Interstage Business Application Server への出力 9.1.5 Interstage Business Application Server の汎用ログを使うプログラム

1.2 MeFt(FJSVmeft)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.2.1 MeFt V10.0 の追加機能概要

表 1.4 MeFt V10.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V10.0.0	帳票表現力向上	以下の新機能を利用した表現力の高い帳票を利用できます。	◆ユーザーズガイド <ul style="list-style-type: none"> 1.5 エンハンス機能

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 矩形日本語項目で改行コード機能の指定 ・ COBOL の行レコード出力で任意用紙サイズへ出力する際の出力横範囲指定 	
2	V10.0.0	運用保守強化	<p>以下のログを採取できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トレースログ ・ システムログ 	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1.5 エンハンス機能
3	V10.0.0	連携機能強化	List Works と連携することにより、電子帳票の保存が行えます。	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1.5 エンハンス機能

1.2.2 MeFt V9.0 の追加機能概要

表 1.5 MeFt V9.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V9.0L10	帳票表現力向上	<p>以下の新機能を利用した表現力の高い帳票を利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フリーフレーム形式 ・ 文字ピッチに 20/3CPI(1.5 ピッチ)の指定 ・ 文字の向きに上下左右の指定 ・ 矩形項目の縦幅を自動で拡張しすべて印字 ・ 矩形項目の文字ピッチや行の高さを自動縮小 ・ 数字項目に編集パターン(通貨・符号,小数部,通貨と符号の後方配置)の追加 ・ 数字項目で通貨記号の複数バイト指定 ・ 矩形項目の禁則処理 ・ 日付項目の日付を任意の日付で出力 ・ 組込みメディア項目のメディア種(GIF,LZW 圧縮形式の TIFF)の追加 ・ Unicode の全角/半角判定テーブル指定のカスタマイズ ・ 画像ファイルをメディアデータの解像度で印刷または PDF 出力 ・ PDF 出力で、画像の透過出力 ・ PDF 出力で、出力可能なバーコード種(CODE 3 OF 9 EIAJ 準拠)の追加 ・ PDF 出力で、出力可能なメディア種(PNG)の追加 	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1.5 エンハンス機能

1.3 Jアダプタクラスジェネレータ(FJSVcblfd、FJSVcbrfd)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表 1.6 Jアダプタクラスジェネレータの追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V9.0L10	Unicode 利用時のエンディアン	Unicode(英数字項目に UTF-8、日本語項目に UCS-2)を利用時、日本語項目の UCS-2 のエンディアンにビッグエンディアン(システムの本来の UCS-2 のエンディアンはリトルエンディアン)を利用できるようになりました。	<p>◆Jアダプタクラスジェネレータ使用手引書</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4.1 起動方法 • 4.2 オプションファイル • 3.2.1.11 Unicode 使用時の日本語の表現形式

1.4 PowerSORT(FSUNbsort)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.4.1 PowerSORT V6.0 の追加機能概要

表 1.7 PowerSORT V6.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V6.0.0 (V10.0.0)	ファイル	浮動フィールド指定にテキストファイル CSV 形式、およびテキストファイル TSV 形式を追加しました。	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1.6.2 フィールドの指定方法 • 3.2.20 テキストファイル オプション(-T) • 4.2.9.1 recform オペランド • 6.5.1 BSRTPRIM 構造体
2	V6.0.0 (V10.0.0)	先入力先出力(FIFO)機能	先入力先出力(FIFO)機能を環境変数、またはスタートアップファイルにより一括して指定できるようになりました。	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1.4.1 環境変数 • 1.4.2 スタートアップファイル
3	V6.0.0 (V10.0.0)	ソート機能 マージ機能 レコード集約機能 サプレス機能 レコード選択機能	+0 と-0 を表現できるデータ形式において、+0 と-0 を同値と判断して処理できるようになりました。	<p>◆ユーザーズガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1.4.2 スタートアップファイル

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
4	V6.0.0 (V10.0.0)	メッセージ	PowerSORT のメッセージに、メッセージ種別、日時、およびメッセージ番号を付加して出力できるようになりました。	◆ユーザーズガイド ・ 1.4.2 スタートアップファイル ・ 7.1 メッセージ
5	V6.0.0 (V10.0.0)	ファイル	bsort コマンド、および BSORT 関数において、テキストファイル内のレコード分離文字を指定できるようになりました。	◆ユーザーズガイド ・ 3.2.11 レコード分離文字オプション(-L) ・ 6.5.1 BSRTPRIM 構造体

注)()内のバージョンは NetCOBOL Enterprise Edition のバージョン・レベルを示します。

1.4.2 PowerSORT V5.0 の追加機能概要

表 1.8 PowerSORT V5.0 の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V5.0L10 (V9.0L10)	ファイル	bsort コマンド、および BSORT 関数において入出力ファイルのファイルシステムを指定する場合、直接、富士通 COBOL ファイルシステムを指定できるようになりました。これにより、スタートアップファイルにライブラリ名を指定することなく、富士通 COBOL ファイルを取り扱えます。	◆ユーザーズガイド ・ 3.2.3 入出力ファイルシステムオプション(-F) ・ 6.5.8 BSFSYS 構造体

注)()内のバージョンは NetCOBOL Enterprise Edition のバージョン・レベルを示します。

1.5 SIMPLIA/COBOL 支援キット(FJSVIncob、FJSVmdprt)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

表 1.9 SIMPLIA/COBOL 支援キットの追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの参照場所
1	V10.0.0	TF-LINDA	NetCOBOL Enterprise Edition V10.0.0 から SIMPLIA/TF-LINDA を提供します。	なし
2	V10.0.0	TF-MDPORT	NetCOBOL Enterprise Edition V10.0.0 から SIMPLIA/TF-MDPORT を提供します。	なし

第 2 章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 NetCOBOL 開発環境 (FJSVcbl)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

2.1.1 翻訳リストの形式変更について

変更内容

NetCOBOL V9.1L10 以前は、翻訳リストの出力形式を指定するオプションの省略値は以下のとおりでした。

- LINESIZE(136) :136 バイトで折り返し
- LINECOUNT(60) :60 行で改ページ

NetCOBOL V10.0.0 以降は、以下のとおり省略値が変更になります。

- INESIZE(0) :折り返しせず
- LINECOUNT(0) :改ページせず

対処方法

既存資産において不都合が生じる場合は、V9.0L10 以前の省略値である

- LINESIZE(136)
- LINECOUNT(60)

を指定してください。

2.1.2 insdbinf 使用時のソースプログラムリストの形式変更について

変更内容

Oracle 連携において、NetCOBOL V10.0.0 以降は、以下の条件の場合、ソースプログラムリストの一連番号を出力しません。

1. 一連番号領域に行番号が記述されているオリジナルソースを insdbinf に入力する。かつ
2. 項番1の出力ソースを翻訳オプション SOURCE 指定で翻訳する。

対処方法

ありません。

2.1.3 障害修正に関する互換情報について

表 2.1 NetCOBOL 開発環境の障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
1	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG49291	翻訳オプション OPTIMIZE 有効時の演算結果について 以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、演算結果誤りが発生することがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG49291)の吸収により正しく動作するようになりました。 <ol style="list-style-type: none">1. 翻訳オプション OPTIMIZE が有効となっている(*1)。かつ、2. PERFORM 文などを使用したループ処理(*2)を手続き部に記述している。かつ、

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
			<p>3. 算術演算(2 進の加減算を除く)を明または暗に行っている。かつ、</p> <p>4. 以下のいずれかの条件を満たす。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 3.の算術演算をループの外で行い、その結果をループ処理の中で参照している — 3.の算術演算をループの中で行い、その結果をループ処理の外で参照している <p>*1: デフォルトは翻訳オプション OPTIMIZE である。</p> <p>*2: 以下の文を記述している場合、COBOL コンパイラが目的プログラムにループ処理を生成することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PERFORM 文 • INITIALIZE 文 • SORT/MERGE 文 • SEARCH 文 • STRING/UNSTRING 文 • GO TO 文など
2	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG50513	<p>翻訳オプション OPTIMIZE 有効時の転記結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、部分参照で値を設定した結果が正しくないことがありますが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG50513)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション OPTIMIZE が有効である。かつ、 2. 次のいずれかの条件を満たす項目に対して値を設定している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — 8 桁以下の符号なし外部 10 進項目である — 8 桁以下の符号つき外部 10 進項目で SIGN 句の指定がない — 8 桁以下の符号つき外部 10 進項目で SEPARATE CHARACTER なしの SIGN IS TRAILING 句が指定されている 3. 2.の後でその外部 10 進項目に対して部分参照で値を設定している。かつ、 4. 3.の後でその外部 10 進項目を参照している。
3	V8.0L10	PG50839	<p>翻訳オプション BINARY(BYTE)指定時の転記結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V8.0L10 では、実行結果が正しくないことがありますが、NetCOBOL V9.0L10 以降では、障害修正(PG50839)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)の指定している。かつ、 2. 翻訳オプション NOTRUNC が有効である(省略値は NOTRUNC)。かつ、 3. 5～7 桁の符号付 2 進項目 (3 バイト)から、3～4 桁の符号付 2 進項目 (2 バイト)に転記している。かつ、 4. 3.の後に、3.の 5～7 桁の符号付 2 進項目または、3～4 桁の符号付 2 進項目を参照している。 <p>上記の COBOL プログラムの記述条件に加えて、プログラムの実行時には更に以下の条件も加わる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3.の 5～7 桁の符号付 2 進項目に負の値が設定されている。
4	V8.0L10 ～	PG54510	<p>外部 10 進項目の部分参照結果について</p>

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
	V9.0L10		<p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、外部 10 進項目を部分参照した結果が正しくないことがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG54510)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスの CONSTANT SECTION に次のいずれかの条件を満たす項目を宣言している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — 16 桁以下の符号なし外部 10 進項目である — 16 桁以下の符号つき外部 10 進項目で SIGN 句の指定がない — 16 桁以下の符号つき外部 10 進項目で SEPARATE CHARACTER なしの SIGN IS TRAILING 句の指定がある 2. 分離されたメソッドの手続き部で、1.の外部 10 進項目全体を参照し、その後でその外部 10 進項目を部分参照している。
5	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG54668	<p>オブジェクト参照に設定した内容の参照結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、オブジェクト参照に設定した内容を正しく参照できないことがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG54668)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オブジェクト参照または、オブジェクト参照を従属する集団項目に OCCURS 句を指定している。かつ、 2. 1.の項目内のオブジェクト参照に対し、定数の添字を使って値の設定または参照をしている。かつ、 3. 2.のオブジェクト参照の値を、変数の添字を使って更新している。かつ、 4. 3.で更新したオブジェクト参照を、定数の添字を使って参照している。
6	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG54712	<p>外部 10 進データの転記について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、MOVE 文の実行結果が正しくないことがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG54712)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 転記において同じデータ項目を送出し側項目と受取り項目に指定している。かつ、 2. データ項目の USAGE 句が DISPLAY である。かつ、 3. データ項目の SIGN 句が SEPARATE 付きではない。かつ、 4. データ項目の桁数が 17 桁または 18 桁である。
7	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG54714	<p>NUMVAL 関数の結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.0L10 までは、NUMVAL 関数の結果誤りが発生することがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG54714)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NUMVAL 関数を使用している。かつ、 2. NUMVAL 関数の引数の英数字項目が 18 バイト以上である。かつ、 3. NUMVAL 関数の関数値の受取り項目が符号付きである。かつ、 4. 小数部が 5 桁以上 12 桁以下の英数字項目である。
8	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG62584	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、COBOL プログラム実行時に、数字転記の結果に小数点位置の誤り、または、除算の結果に誤りが発生することがありましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG62584)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション NOSDS を指定している。かつ、 2. 次のいずれかに該当するプログラム記述である。

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
			<ul style="list-style-type: none"> — 数字転記の受取り側が、符号付き内部 10 進項目である、かつ、受取り側の小数部けた数が、送出し側の小数部けた数より大きい — 数字転記の受取り側が数字編集項目、かつ、送出し側が内部 10 進項目である、かつ、受取り側の小数部けた数が、送出し側の小数部けた数より大きい — 除算の被除数が、SIGN 句に SEPARATE 指定を書いた外部 10 進項目、かつ、演算中間結果が 30 けたを超える(翻訳時診断メッセージ JMN3024I-W が出力される)
9	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG62941	<p>日本語利用者語の語頭または語尾の全角ハイフンについて</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、COBOL プログラムの翻訳時、エラーチェックされず、正常に翻訳が終了していましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG62941)の吸収により正しくチェックできるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入力ソースが Unicode(UTF-8)である。かつ、 2. 日本語利用者語の語頭または語尾のどちらかに全角ハイフンがある。かつ、 3. 全角ハイフンのコードが 0xEFBC8D である。
10	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63615	<p>外部 10 進データの転記について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、MOVE 文の実行結果で符号部の値が正しくないことがありましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG63615)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部 10 進同士の転記である。かつ、 2. 送出し側が符号なし数字項目である。かつ、 3. 受取り側の項目の SIGN 句が SEPARATE なしの LEADING 指定である。かつ、 4. 送出し側と受取り側に PICTURE 句に"P"または"V"が指定している。かつ、 5. 送出し側項目と受取り側項目の重なりが1桁である。かつ、 6. 重なり of 1 桁が送出し側項目の最下位桁と受取り側項目の最上位桁である。
11	V9.0L10 ～ V9.1L10	PG63662	<p>NetCOBOL マイグレーションオプションの表示ファイル機能について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、NetCOBOL マイグレーションオプションの表示ファイル機能を使用した COBOL プログラムでダミー READ 実行後、プログラムが異常終了する、または、プログラムの実行結果に誤りがあることがありましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG63662)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL マイグレーションオプションを使用している。かつ、 2. 表示ファイルを使用している。かつ、 3. 表示ファイルの READ を行う。かつ、 4. ダミー READ の処理が実行される。
12	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63990	<p>SEARCH 文(SEARCH ALL)の検索結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、SEARCH ALL 文で正しく表検索できないことがありましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG63990)の吸収により、正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SEARCH 文(SEARCH ALL)が存在する。かつ 2. SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元である。かつ、 3. 条件の左辺(キー項目)に次のいずれかの USAGE の項目を記述している。かつ、

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
			<ul style="list-style-type: none"> — COMP-5(翻訳オプション ASCOMP5 によりみなされたものも含む) — BINARY-SHORT — BINARY-LONG — BINARY-DOUBLE <p>4. 条件の右辺(比較対象項目)に浮動小数点項目または浮動小数点定数を記述している。</p>
13	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64711	<p>翻訳オプション BINARY と OPTIMIZE を同時指定した場合の実行結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、COBOL プログラム実行時に正しい結果が得られないことがありましたが、NetCOBOL V10.0L10 以降では、障害修正(PG64711)の吸収により、正しい結果が得られるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 翻訳オプション OPTIMIZE が指定されている。かつ、 3. 以下の a または b に該当するソース記述が存在する。 <ol style="list-style-type: none"> a. 以下の条件を全て満足する算術文 <ul style="list-style-type: none"> - 受取り側要素(*1)に符号無し 2 進項目(*2)が指定されている。 - 受取り側要素(*1)の符号無し 2 進項目の領域長が、2 バイトである。 - 受取り側要素(*1)が、その算術文の算術式中で使用されている。 - 受取り側要素(*1)の小数部桁数が、その算術文の中間結果精度の小数部桁数より小さい。 - 算術文が COMPUTE 文の場合、[NOT] ON SIZE ERROR 句の指定が無い。 b. 以下の条件を全て満足する MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)。 <ul style="list-style-type: none"> - 受取り側要素に符号無し 2 進項目(*2)が指定されている。 - 受取り側要素の 2 進領域長が、2 バイトである。 - 受取り側要素が、送り側要素の添字中に使用されている。 - 受取り側要素の小数部桁数が、送り側要素の小数部桁数より小さい。 - 翻訳オプション CHECK(BIND)が指定されていない。 <p>*1: DIVIDE 文の REMAINDER 指定も含みます。 *2: 製品により該当するデータ項目の範囲が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 版 → 全ての 2 進項目 • Solaris 版以外 → USAGE IS COMP-5 のみ
14	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64787	<p>翻訳オプション BINARY と TRUNC を同時指定した場合の転記の結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、正しい実行結果が得られないことがありましたが、NetCOBOL V10.0L10 以降では、障害修正(PG64787)の吸収により、正しい結果が得られるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 翻訳オプション TRUNC が指定されている。かつ、

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
			<p>3. 送り側要素が符号無し2進項目(*1)、受取り側要素が符号の有無に関わらず、2進項目または内部10進のいずれかである MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)が存在する。かつ</p> <p>4. 3.の MOVE 文において、送り側要素と受取り側要素の整数部桁数の大小関係が、送り側整数部桁数 > 受取り側整数部桁数、である。かつ</p> <p>5. 送り側要素の符号無し2進項目の領域長が、2 または 4 バイトである。かつ</p> <p>6. 送り側要素の符号無し2進項目が、最左端ビットが ON の値を保持している。</p>
15	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64876	<p>翻訳オプション BINARY を指定した場合の組み込み関数の値について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、正しい実行結果が得られないことがありましたが、NetCOBOL V10.0L10 以降では、障害修正(PG64876)の吸収により、正しい結果が得られるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ <ul style="list-style-type: none"> － FUNCTION MAX － FUNCTION MIN － FUNCTION MEAN － FUNCTION MEDIAN － FUNCTION MIDRANGE － FUNCTION VARIANCE － FUNCTION RANGE － FUNCTION SUM 3. 2.の関数に指定されている引数の並びの中に、2 バイトまたは 4 バイトの符号無し2進項目が存在する。かつ 4. 2.の関数に指定されている引数の並びの中に、10 桁以上の固定小数点数字項目が存在しない。
16	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64890	<p>翻訳オプション BINARY を指定した場合の数字定数から2進項目への転記の結果について</p> <p>以下の条件の場合、NetCOBOL V9.1L10 までは、正しい実行結果が得られない、または、翻訳時に不当なエラーメッセージが出力されることがありましたが、NetCOBOL V10.0L10 以降では、障害修正(PG64890)の吸収により、正常に翻訳が終了し、なおかつ実行においても正しい結果が得られるようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 数字定数を2進項目に転記する MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)が存在する。かつ 3. 2.の数字定数の数値が5桁である。かつ 4. 2.の転記において「数字定数の小数部桁数 < 受取り側の2進項目の小数部桁数」である。

・ V/L は障害が存在する範囲を示します。

2.2 NetCOBOL 運用環境 (FJSVcbr)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

2.2.1 障害修正に関する互換情報について

表 2.2 NetCOBOL 運用環境の障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
1	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG61062	レコード順ファイルの入出力状態値について NetCOBOL V9.1L10 までは、以下の条件の場合、実行時に入出力状態値'04'が返却されませんでしたでしたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG61062)の吸収により、正しく動作するようになりました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 可変長のレコード順ファイルを使用している。かつ、 2. 1.のファイルの定義に FILE STATUS 句を指定している。かつ、 3. 1.のファイルに対し、COBOL ファイルシステム(*)を指定している。かつ、 4. 1.のファイルに対し、READ 文を実行している。かつ、 5. 4.で読み込んだレコードの長さが、プログラムで定義した最大レコード長を超えている。 (*) ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。
2	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64106	SEARCH 文(SEARCH ALL)の検索結果について NetCOBOL V9.1L10 までは、以下の条件の場合、SEARCH ALL 文で正しく表検索できないことがありましたが、NetCOBOL V10.0.0 以降では、障害修正(PG64106)の吸収により、正しく動作するようになりました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. SEARCH 文(SEARCH ALL)が存在する。かつ 2. SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元である。かつ、 3. 条件の左辺(キー項目)に次のいずれかの USAGE の項目を記述している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — COMP-5(翻訳オプション ASCOMP5 によりみなされたものも含む) — BINARY-SHORT — BINARY-LONG — BINARY-DOUBLE 4. 条件の右辺(比較対象項目)に浮動小数点項目または浮動小数点定数を記述している。
3	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG55501	Interstage Application Server 連携について NetCOBOL V9.0L10 までは、以下の条件の場合、プレディケーションレジスタの値が復元されずに誤動作することがありましたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG55501)の吸収により、正しく動作するようになりました。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Interstage Application Server から COBOL 実行環境開設処理(JMPBDCOB または JMPBDMCB)を呼んでいる。かつ、 2. 呼び出し処理をはさんでプレディケーションレジスタの寿命が続いている。
4	V8.0L10 ～	PG50258	SEARCH 文(SEARCH ALL)の検索結果について

項番	V/L(*)	P 番号	変更内容
	V9.0L10		<p>NetCOBOL V9.0L10 までは、SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元の場合、条件の右辺(比較対象項目)に指定した符号なし内部 10 進項目と条件の左辺(キー項目)に指定した次のいずれかの項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 符号なし外部 10 進項目 ・ 符号付き外部 10 進項目 ・ 符号なし内部 10 進項目 ・ 符号付き内部 10 進項目 <p>との組合せの条件を満足する表要素を正しく検索できませんでしたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG50258)の吸収により、正しく検索できるようになりました。</p>
5	V8.0L10 ～ V9.0L10	PG51442	<p>SEARCH 文(SEARCH ALL)の検索結果について</p> <p>NetCOBOL V9.0L10 までは、環境変数 LANG に ja_JP.UTF-8 を設定した環境で、SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元の場合、条件の左辺(キー項目)または右辺(比較対象項目)に日本語項目または日本語編集項目を記述し、条件の他方に集団項目を記述している組合せの条件を満足する表要素を正しく検索できませんでしたが、NetCOBOL V9.1L10 以降では、障害修正(PG51442)の吸収により、正しく検索できるようになりました。</p>
6	V8.0L10	PG47111	<p>ゼロ除算を行った場合の動作について</p> <p>NetCOBOL V8.0L10 では、被除数の要素の桁数が 16 桁以上、または除数の要素の桁数が 10 桁以上となるゼロ除算で、ON SIZE ERROR または NOT ON SIZE ERROR が記述されていない場合、例外メッセージが表示されず異常終了していませんでしたが、NetCOBOL V9.0L10 以降では、障害修正(PG47111)の吸収により、例外メッセージを出力して異常終了するようになりました。</p>
7	V8.0L10	PG40057	<p>NSPCOMP(ASP)オプション指定時の空白比較結果について</p> <p>NetCOBOL V8.0L10 では、翻訳オプション NSPCOMP(ASP)を指定時、文字定数または 16 進文字定数を指定した長さが 2 バイト以上の ALL 定数と、ALL 定数よりデータ項目の長さが大きい英数字項目または集団項目からなるデータ項目を文字比較した場合、比較結果が正しくないことがありましたが、NetCOBOL V9.0L10 以降では、障害修正(PG40057)の吸収により、正しく比較するようになりました。</p>
8	V8.0L10	PG44915	<p>NATIONAL 関数の変換結果について</p> <p>NetCOBOL V8.0L10 では、実行時のコード系が EUC の動作環境において、翻訳オプション KANA(EUC)を指定している、または翻訳オプション KANA を省略して翻訳した COBOL プログラムで NATIONAL 関数を使用して EUC 半角カナを変換した場合、変換結果に誤りがありましたが、NetCOBOL V9.0L10 以降では、障害修正(PG44915)の吸収により、正しく変換するようになりました。</p>

・ V/L は障害が存在する範囲を示します。

2.3 J アダプタクラスジェネレータ開発環境 (FJSVcblfd)

互換に関する情報はありません。

2.4 J アダプタクラスジェネレータ運用環境 (FJSVcbrfd)

互換に関する情報はありません。

2.5 MeFt(FJSVmeft)

互換に関する情報はありません。

2.6 PowerSORT(FSUNbsort)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

2.6.1 PowerSORT 利用時の環境設定について

変更内容

PowerSORT V4.0L10(NetCOBOL V8.0L10)までは、PowerSORT(FSUNbsort パッケージ)をインストールするだけで利用できましたが、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.0L10)以降では、環境変数の設定が必要となりました。

影響

必要な環境変数を設定しなかった場合、bsort コマンド、bsortex コマンド、および BSORT 関数を使用したユーザアプリケーションが動作しません。

対処方法

PowerSORT V6 ユーザーズガイドの“B.1 利用時の環境設定”を参照して環境変数を設定してください。

2.6.2 テキストファイル浮動フィールド指定のキーフィールドについて

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、「キーフィールドが存在しないレコードが入力されました。」というエラーメッセージを出力して終了していました。

1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、
2. キーフィールドが存在しないレコードが入力された。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、テキストファイル固定フィールド指定の場合と同様に、キーフィールドの値を 0x00 とみなして処理するように変更しました。

影響

テキストファイル浮動フィールド指定においてキーフィールドが存在しないレコードが入力されても、エラーが発生しません。

対処方法

ありません。

2.6.3 先入力先出力(FIFO)機能について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、エラーメッセージを出力して終了していました。

1. 先入力先出力(FIFO)機能を指定している。かつ、
2. コピー機能、レコード集約機能、またはサブレス機能を指定している。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、先入力先出力(FIFO)機能の指定を無視して動作するように変更しました。

影響

先入力先出力(FIFO)機能と同時にコピー機能、レコード集約機能、またはサブレス機能を指定しても、エラーが発生しません。

対処方法

ありません。

2.6.4 マージ機能について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、同一なキーフィールドを持つレコードをレコード入力順に並べていました。

1. マージ機能を指定している。かつ、
2. 先入力先出力(FIFO)機能を指定している。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、先入力先出力(FIFO)機能の指定を無視して動作するように変更しました。同一なキーフィールドを持つレコードは、入力ファイルの指定順(同一ファイル内のレコードは、ファイル内の順)に出力されます。

また、以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、同一なキーフィールドを持つレコードの中から、レコード入力順の最初、または最後のレコードを出力していました。

1. bsortex コマンドを使用している。かつ、
2. マージ機能を指定している。かつ、
3. レコード集約機能、またはサブレス機能を指定している。かつ、
4. first オペランド、または last オペランドを指定している。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、同一なキーフィールドを持つレコードの中から、入力ファイルの指定順(同一ファイル内のレコードは、そのファイル内の順)の最初、または最後のレコードを出力するように変更しました。

影響

同一なキーフィールドを持つレコードの出力される順、または同一なキーフィールドを持つレコードの中から出力されるレコードが変わります。

対処方法

ありません。



参考

マージ機能では、各入力ファイルから 1 レコードずつ入力し、指定されたキーフィールドの順に出力ファイルへ出力していきます。また、次のレコード入力は、出力されたレコードが属していた入力ファイルから行われます。このため、レコードの入力順は、各入力ファイル内のレコードによって変わります。この結果、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)まででマージ機能に先入力先出力(FIFO)機能を組み合わせて指定した場合、またはマージ機能にレコード集約機能、またはサブレス機能を組み合わせて指定し、first オペランド、または last オペランドで出力するレコードを指定した場合、処理する入力ファイルによって結果が異なっていました。

2.6.5 富士通 COBOL ファイルシステムの可変長レコード形式について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、富士通 COBOL ファイルシステムによって、指定した最大レコード長を超える部分が切り捨てられることがありました。

1. 入力ファイルシステムが、富士通 COBOL ファイルシステム(順ファイル)、または富士通 COBOL ファイルシステム(索引ファイル)である。かつ、

2. レコード形式が可変長レコード形式である。かつ、
3. 指定した最大レコード長より長いレコードが存在する。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、「ファイル(※ファイル名)からのレコード入力中にエラー(miss match record-length)が発生しました。」というエラーメッセージを出力して終了するように変更しました。

影響

富士通 COBOL ファイルシステム(順ファイル)、または富士通 COBOL ファイルシステム(索引ファイル)において、指定した最大レコード長を超えるレコードが存在する場合、エラーが発生します。

対処方法

富士通 COBOL ファイルシステム(順ファイル)、または富士通 COBOL ファイルシステム(索引ファイル)の可変長レコード形式のファイル进行处理する場合、レコード長には、実際の最大レコード長以上を指定してください。

2.6.6 「+0」と「-0」を表現できるデータ形式について

変更内容

PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、「+0」と「-0」を表現できるデータ形式において、「+0」と「-0」は異なる値として処理(ソート処理、マージ処理、レコード集約処理、サプレス処理、およびレコード選択処理)していました。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、同値として処理するように変更しました。

影響

「+0」と「-0」の値を持つレコードの出力順、出力されるレコード、またはレコード選択機能の結果が異なることがあります。

対処方法

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)において「+0」と「-0」を異なる値として処理する場合は、スタートアップファイルのBSORT_SIGNEDZEROにEFFECTを指定してください。



参考

「+0」と「-0」を表現できるデータ形式を以下に示します。

- 内部 10 進数
- 外部 10 進数
- 前置別符号付数字
- 後置別符号付数字
- 前置オーバパンチ符号付数字
- 後置オーバパンチ符号付数字
- テキストファイルにおいて、キーフィールド、および選択フィールドの操作として n(BSOPT_NUMERIC)を指定した場合、またはキーフィールドの操作として N(BSOPT_CHARNUM)を指定した場合

2.6.7 メッセージの出力形式について

変更内容

PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、メッセージは、ヘッダーとメッセージ本文だけを出力していました。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、メッセージは、ヘッダー、メッセージ種別、日時、メッセージ番号、およびメッセージ本文を出力するように変更しました。

影響

出力されるメッセージの形式が異なります。

対処方法

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)において、ヘッダーとメッセージ本文だけを出力したい場合は、スタートアップファイルのBSORT_MSGSTYLE に 1 を指定してください。

2.6.8 一時ファイル容量不足時のメッセージについて

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.1L10)までは、「一時ファイルの容量が足りません。」というエラーメッセージを出力してエラー終了していました。

1. ソート機能を指定している。かつ、
2. 一時ファイルの容量不足を検出した。

PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)では、「一時ファイルの容量が足りません。」というエラーメッセージに続いて、「一時ディレクトリ(※ディレクトリ名)を使用しました。」(注 1)、または「一時ファイル(※ファイル名)を使用しました。」(注 2)というエラーメッセージを出力するように変更しました。

注 1) 一時ファイルを作成するディレクトリ名を指定した場合、または一時ファイルの指定を省略した場合に出力されます。

注 2) 一時ファイルのファイルパス名を指定した場合に出力されます。

影響

出力されるメッセージが増加します。

対処方法

ありません。

2.6.9 障害修正に関する互換情報について

表 2.3 PowerSORT の障害修正に関する互換情報

項番	V/L	P 番号	変更内容
1	V4.0L10 (V8.0L10)	PG45790	以下の条件の場合、Unicode 形式のファイルが出力されない(ファイルの先頭に BOM が出力されない)ことがありましたが、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.0L10)以降では、障害修正(PG45790)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. レコード形式がテキスト形式である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式、または UTF-8 形式)である。かつ、 3. 入力ファイルの先頭に BOM が存在する。かつ、 4. 環境変数 BSORT_UNICODEBOM に ON を指定している。または、環境変数 BSORT_UNICODEBOM を省略かつスタートアップファイルの BSORT_UNICODEBOM に ON を指定している。または、環境変数 BSORT_UNICODEBOM およびスタートアップファイルの BSORT_UNICODEBOM を省略している。かつ、 5. 出力件数が0件である。
2	V4.0L10 (V8.0L10)	PG46785	以下の条件の場合、PowerSORT のレコード選択機能の結果が異常になりましたが、PowerSORT V5.0L10(NetCOBOL V9.0L10)以降では、障害修正(PG46785)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. バイナリファイル指定である。かつ、

項番	V/L	P 番号	変更内容
			<p>2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式、または UTF-8 形式)である。かつ、</p> <p>3. レコード選択機能を使用している。かつ、</p> <p>4. 選択フィールドのデータ形式に外部 10 進数(zdl)、前置オーバパンチ符号付数字(alo)、後置オーバパンチ符号付数字(ato)のいずれかを指定している。</p>
3	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61365	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が「bsrtopen 関数で指定した BSRTPRIM(keyoption2)に誤りがあります。」という不適切なエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61365)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <p>1. bsort コマンドを使用している。かつ、</p> <p>2. キーフィールドを指定していない。かつ、</p> <p>3. テキストファイル指定である。かつ、</p> <p>4. キーフィールドの操作に'I'と'N'を同時に指定している。</p>
4	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61366	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が「オプション(n(key))とl(key) or w(key))は同時に指定できません。」、または「キーオプションの数字の算術的比較と英数字の分割比較は同時に指定できません。」等の不適切なエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61366)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <p>1. bsortex コマンドを使用している。かつ、</p> <p>2. キーフィールドに ALL を指定している。かつ、</p> <p>3. キーフィールドの操作に以下の組み合わせで指定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> — 'n'と'N' — 'n'と'I' — 'N'と'I'
5	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61369	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が出力するメッセージ内のエラー番号に誤りがあることがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61369)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <p>1. 入力ファイル、または出力ファイルのファイルシステムに富士通 COBOL ファイルシステムを指定している。かつ、</p> <p>2. 富士通 COBOL ファイルシステムで何らかのエラーが発生した。</p>
6	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61370	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が「An necessary BSORT working area cannot be secured.」という綴りに誤りのあるエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61370)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <p>1. 英語メッセージが出力される環境で PowerSORT を使用している。かつ、</p> <p>2. PowerSORT が必要とするメモリが割り当てられない。</p>
7	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	—	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が「テキストファイルで入力コード系に EBCDIC コード系を指定してます。」という脱字のあるエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <p>1. BSORT 関数を使用した C 言語のアプリケーションを作成し実行している。かつ、</p> <p>2. テキストファイル指定である。かつ、</p> <p>3. 入力ファイルのコード系に EBCDIC コード系を指定している。</p>

項番	V/L	P 番号	変更内容
8	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61372	以下の条件の場合、PowerSORT が「Max output file size is specified with the file system which dose not support it.」という綴りに誤りのあるエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61372)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. 英語メッセージが出力される環境で PowerSORT を使用している。かつ、 2. 出力ファイルシステムがシステムの標準ファイルシステム以外である。かつ、 3. 出力可能な最大ファイルサイズを指定している。
9	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61374	以下の条件の場合、再編成フィールドの指定の誤りが検出できず、PowerSORT が異常なレコードを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61374)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)である。かつ、 3. レコード再編成機能を指定している。かつ、 4. 再編成フィールドの長さが 2 の倍数でない。または、テキストファイル固定フィールド指定のときに再編成フィールドの位置が 2 の倍数でない。
10	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61375	以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常になることがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61375)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)である。かつ、 3. キーフィールド、選択フィールド、再編成フィールド、または集約フィールドを指定している。
11	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61696	以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常になる(集約フィールドが指定した出力形式で出力されない)ことがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG61696)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式に'd'を指定している。
12	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62207	以下の条件の場合、1 つのファイルに出力可能な最大ファイルサイズ、または 1 つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しないことがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG62207)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. -output オプションで maxfilesize オペランド、または maxrecnum オペランドを指定している。かつ、 3. PowerSORT が用意した出力バッファ内に格納されているレコードを全て出力した時点でファイルの分割を行う条件となった。
13	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62208	以下の条件の場合、PowerSORT が出力する「キーフィールド(※誤りのあるフィールド番号)の指定に誤りがあります。」というエラーメッセージ内の“※誤りのあるフィールド番号”に誤りがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG62208)の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのレコード再編成機能を指定している。かつ、

項番	V/L	P 番号	変更内容
			3. 入力ファイルのレコード再編成機能の指定によりキーフィールドが存在しないレコードとなった。
14	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62211	<p>以下の条件の場合、1つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しない(注)ことがある、または「BSORT の処理で内部論理の矛盾を検出しました. (qha5term-72)」というメッセージを出力してエラー終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG62211)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. -output オプションで maxrecnum オペランドを指定している。かつ、 4. 入力ファイル内にレコード分離文字だけのレコードが含まれる。 <p>注) maxrecnum オペランドで指定したレコード件数を超えて出力される。</p>
15	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62212	<p>以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常(集約フィールドが指定した形式で出力されない)になることがありましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG62212)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. マージ機能を指定している。かつ、 3. レコード集約機能を指定している。かつ、 4. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 5. -summary オプションで first オペランドを指定している。
16	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62213	<p>以下の条件の場合、PowerSORT が「集約フィールド(※異常が検出されたフィールド番号)の内部に不適切なコードが発見されたため、集約処理を中断します。」というメッセージを出力してレコード集約処理が中断されていましたが、PowerSORT V6.0.0(NetCOBOL V10.0.0)以降では、障害修正(PG62213)の吸収により正しく動作するようになりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 4. 集約処理の対象とならないレコードの集約フィールド内に空白、またはタブが存在する。

• V/L は、障害が存在する範囲を示します。

• ()内のバージョンは NetCOBOL Enterprise Edition のバージョン・レベルを示します。

第3章 プログラム修正一覧

本章では、NetCOBOL Enterprise Edition V10.0.0 で修正された障害修正の情報を説明します。旧版の情報は、該当する版のマニュアルか NetCOBOL の Web サイトを参照してください。

3.1 NetCOBOL 開発環境 (FJSVcbl)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

表 3.1 NetCOBOL 開発環境のプログラム修正一覧

項番	V/L	P 番号	現象
1	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG49828	<p>以下の条件の場合、翻訳時に不当な診断メッセージ JMN2106I-S が出力されることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ALPHABET 句で NATIVE 以外の符号系名を定義している。かつ、 2. 1.で定義した符号系名を PROGRAM COLLATING SEQUENCE 句に指定している。かつ、 3. 字類が英数字の項目に条件名を定義している。かつ、 4. 3.の条件名の VALUE 句が THRU 指定を持つ。かつ 5. 4.の THRU 指定の前後に記述した定数の値の大小関係が NATIVE な場合と1で定義した符号系名の間で逆転する。
2	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG50529	<p>以下の条件の場合、翻訳時にコンパイラの診断メッセージ JMN2224I-W(「CHARACTER TYPE 句または PRINTING POSITION 句が有効なデータ項目が再定義されています。印刷結果は保証されません。」)が出力されないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. REDEFINES 句を指定した項目が、CHARACTER TYPE 句を指定した項目に従属している。かつ、 2. 1.の REDEFINES 句を指定した項目、あるいはこれに従属している項目が、日本語項目または日本語編集項目。かつ、 3. 1.の REDEFINES 句指定項目によって再定義される項目は、次のいずれにも該当しない。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — 書き方1、2の CHARACTER TYPE 句が適用される日本語項目または日本語編集項目 — 書き方3の CHARACTER TYPE 句が適用される表示用データ項目 4. 2.の日本語項目または日本語編集項目自身には、CHARACTER TYPE 句を指定していない。 <p>※補足 CHARACTER TYPE 句指定項目に従属する項目に REDEFINES 句を指定した場合は、レコードの印字は正しく行われなため、通常は JMN2224I-W が出力されます。</p>
3	V8.0L10 ～	PG54943	<p>以下の条件の場合、翻訳時にコンパイラが異常終了することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手続き部に、「末行に COPY 文がある登録集」を指定した COPY 文がある。かつ、 2. 翻訳オプション CREATE(REP)を指定している。かつ、 3. 翻訳オプション TEST を指定している。 <p>なお、本件はメモリ状態に依存して発生します。上記条件に加え、以下条件が加わると、発生頻度が高くなります。</p>

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		・ 該当する COPY 文以前に、COPY 文の記述が多数ある場合
4	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG62941	以下の条件の場合、翻訳時に、日本語利用者語の語頭または語尾に全角ハイフンがあっても翻訳エラー(JMN1010I-S)が出力されないことがあります。 1. 入力ソースが Unicode(UTF-8)である。かつ、 2. 日本語利用者語の語頭または語尾のどちらかに全角ハイフンがある。かつ、 3. 全角ハイフンのコードが 0xEFBC8D である。
5	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG61669	以下の条件の場合、実行時に COBOL ランタイムシステムにおいてアプリケーションエラーで異常終了することがあります。 1. ファイル記述項において LINAGE 句と EXTERNAL 句の両方が指定されたファイルに対する WRITE 文が存在する。かつ、 2. 翻訳時に、翻訳オプション THREAD(MULTI)および SHREXT を同時に指定している。
6	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG62584	以下の条件の場合、数字転記の結果に小数点位置の誤り、または、除算の結果に誤りがあることがあります。 1. 翻訳オプション NOSDS を指定している。かつ、 2. 次のいずれかに該当するプログラム記述である。 － 数字転記の受取り側が、符号付き内部 10 進項目である、かつ、受取り側の小数部けた数が、送出し側の小数部けた数より大きい場合 － 数字転記の受取り側が数字編集項目、かつ、送出し側が内部 10 進項目である、かつ、受取り側の小数部けた数が、送出し側の小数部けた数より大きい場合 － 除算の被除数が、SIGN 句に SEPARATE 指定を書いた外部 10 進項目、かつ、演算中間結果が 30 けたを超える(翻訳時診断メッセージ JMN3024I-W が出力される)場合
7	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG58888	以下の条件の場合、行番号情報埋込みツール(insdbinf)使用時に、正しい行番号情報が埋め込まれないまま正常終了するため、デバッグができないことがあります 1. Pro*COBOL を使用している。かつ、 2. Pro*COBOL の入力ソースにおいて、Pro*COBOL が展開する行(*1)の一連番号領域に行番号が記述されている。かつ、 3. 2.に当てはまるソースを Pro*COBOL に入力し、出力されたソースとともに行番号情報埋込みツール(insdbinf)に入力する。 *1:以下の記述がある行(代表例) ・ 埋込み SQL 文 ・ VARYING 句 ・ COMP(Pro*COBOL のプリコンパイラオプション comp5 が有効のとき)など
8	V8.0L10 ～	PG61449	以下の条件の場合、行番号情報埋込みツール(insdbinf)の処理中にループすることがあります。 1. 埋込み SQL 文とは関係ないソース記述において、"EXEC"または"exec"を含む定数または利用者語の記述がある。かつ、 － 例 1:利用者語 - 01 DEXEC01 PIC S9(4) COMP-5. － 例 2:定数

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		- 01 DATA-01 PIC X(8) VALUE "AAEXECZZ". 2. 1.に当てはまるソースを行番号情報埋込みツール(insdbinf)に入力する。
9	V9.1L10	PG59575	以下の条件の場合、メイクに失敗するメイクファイルを cobdepend コマンドが生成することがあります。 1. 入力 COBOL ソースに以下のいずれかの構文が含まれている。 - COBOL の INCLUDE 文 - 埋め込み SQL の INCLUDE 文 なお、COBOL の INCLUDE 文は NetCOBOL の文法には含まれていない文です。
10	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63613	以下の条件の場合、翻訳時にコンパイラが異常終了することがあります。 1. プログラムの流れを変えない文(*1)が連続して多数(*2)ある。かつ 2. オブジェクトのテキスト部サイズが 16M バイトを超えている。 (*1)IF 文や PERFORM 文などはプログラムの流れを変える文 (*2)目安として、4 バイトの 2 進項目同士を転記する MOVE 文で 75 個程度連続する場合
11	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63615	以下の条件の場合、MOVE 文の実行結果で符号部の値が正しくないことがあります。 1. 外部 10 進同士の転記である。かつ、 2. 送出し側が符号なし数字項目である。かつ、 3. 受取り側の項目の SIGN 句が SEPARATE なしの LEADING 指定である。かつ、 4. 送出し側と受取り側に PICTURE 句に"P"または"V"が指定している。かつ、 5. 送出し側項目と受取り側項目の重なりが1桁である。かつ、 6. 重なり of 1 桁が送出し側項目の最下位桁と受取り側項目の最上位桁である。
12	V9.0L10 ～ V9.1L10	PG63662	以下の条件の場合、NetCOBOL マイグレーションオプションの表示ファイル機能を使用した COBOL プログラムでダミー READ 実行後、プログラムが異常終了する、または、プログラムの実行結果に誤りがあることがあります。 1. NetCOBOL マイグレーションオプションを使用している。かつ、 2. 表示ファイルを使用している。かつ、 3. 表示ファイルの READ を行う。かつ、 4. ダミー READ の処理が実行される。
13	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63895	以下の条件の場合、強い型付けのデータ項目を引数または復帰値に持つメソッドの実行時の適合チェック:CHECK(ICONF)でセグメンテーション違反が発生することがあります。 1. 呼び出し元のプログラムで CHECK オプションの ICONF が有効な状態で翻訳された。かつ、 2. メソッドの引数、または、復帰値に強い型付けされたデータを使用している。かつ、 3. 2.のデータにクラスが指定されたオブジェクト参照項目が含まれている。かつ、 4. メソッドの呼び出し時のオブジェクトデータとしてユニバーサルオブジェクトを指定している。
14	V8.0L10 ～	PG63659	以下の条件に該当する画面帳票定義体を入力した場合、翻訳時メッセージ JMN2503I-S が出力されることがあります。 1. FORM で作成した画面定義体である。かつ、

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		<p>2. 画面定義体のレコード定義において、次の計算式の結果が、256 の倍数から 1 を引いた数になるように項目が定義してある。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“なし”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長) － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“共有する”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長)+(項目数×3) － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“共有しない”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長)+(項目数×5) <p>3. レコード定義の末尾にカーソル桁位置項目、カーソル行位置項目、左上端行位置項目、左上端桁位置項目、右下端行位置項目または右下端桁位置項目が定義してある。</p> <p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FORM で作成した帳票定義体である。かつ、 2. 帳票定義体にバーコード種別が 標準物流、または 拡張物流 のバーコード項目が定義してある。かつ、 3. 帳票定義体のレコード定義において、次の計算式の結果が、256 の倍数から 1 を引いた数になるように項目が定義してある。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“なし”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長) － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“共有する”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長)+(項目数×3) － 画面帳票定義体プロパティの項目制御部が“共有しない”の場合 <ul style="list-style-type: none"> - (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長)+(項目数×5) 4. レコード定義の末尾にアドオンデータ項目が定義してある。 <p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerFORM で作成した帳票定義体である。かつ、 2. バーコード種別が UPC-A (UPC バージョン A)、UPC-E (UPC バージョン E)、または EAN-13 のバーコード項目が定義してある。かつ、 3. 2.のバーコード項目にアドオンデータが設定してある。かつ、 4. 次の計算式の結果が、256 の倍数から 1 を引いた数になるように項目が定義してある。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － (項目長の総和)－(レコード定義の末尾の項目の項目長)+(項目数×5) 5. 3.のアドオンデータのレコードのみ項目がレコードリストの末尾に定義されている。
15	V8.0L10 ～	PG63920	<p>以下の条件の場合、翻訳時異常終了することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リソースのコード系が Unicode である。かつ 2. プログラム定義である。かつ 3. そのプログラム定義に VALUE SPACE が指定された日本語編集項目が存在する。かつ 4. そのプログラム定義が初期化属性である。またはそのプログラムが内部プログラムであり、それを含むプログラムにその内部プログラム名を指定した CANCEL 文、または一意名指定の CANCEL 文が存在する。

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		または 翻訳オプション THREAD(SINGLE)および INITVALUE を指定している。
16	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63990	以下の条件の場合、SEARCH ALL 文で正しく表検索できないことがあります。 <ol style="list-style-type: none"> SEARCH 文(SEARCH ALL)が存在する。かつ SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元である。かつ、 条件の左辺(キー項目)に次のいずれかの USAGE の項目を記述している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> COMP-5(翻訳オプション ASCOMP5 によりみなされたものも含む) BINARY-SHORT BINARY-LONG BINARY-DOUBLE 条件の右辺(比較対象項目)に浮動小数点項目または浮動小数点定数を記述している。
17	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64711	以下の条件の場合、正しい結果が得られないことがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 翻訳オプション OPTIMIZE が指定されている。かつ、 以下の a または b に該当するソース記述が存在する。 <ol style="list-style-type: none"> 以下の条件を全て満足する算術文 <ul style="list-style-type: none"> 受取り側要素(*1)に符号無し 2 進項目(*2)が指定されている。 受取り側要素(*1)の符号無し 2 進項目の領域長が、2 バイトである。 受取り側要素(*1)が、その算術文の算術式中で使用されている。 受取り側要素(*1)の小数部桁数が、その算術文の中間結果精度の小数部桁数より小さい。 算術文が COMPUTE 文の場合、[NOT] ON SIZE ERROR 句の指定が無い。 以下の条件を全て満足する MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)。 <ul style="list-style-type: none"> 受取り側要素に符号無し 2 進項目(*2)が指定されている。 受取り側要素の 2 進領域長が、2 バイトである。 受取り側要素が、送り側要素の添字中に使用されている。 受取り側要素の小数部桁数が、送り側要素の小数部桁数より小さい。 翻訳オプション CHECK(BIND)が指定されていない。 <p>*1: DIVIDE 文の REMAINDER 指定も含まれます。 *2: 製品により該当するデータ項目の範囲が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 版 → 全ての 2 進項目 Solaris 版以外 → USAGE IS COMP-5 のみ
18	V8.0L10 ～	PG64787	以下の条件の場合、正しい結果が得られないことがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		2. 翻訳オプション TRUNC が指定されている。かつ、 3. 送り側要素が符号無し2進項目(*1)、受取り側要素が符号の有無に関わらず、2進項目または内部10進のいずれかである MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)が存在する。かつ 4. 3.の MOVE 文において、送り側要素と受取り側要素の整数部桁数の大小関係が、送り側整数部桁数 > 受取り側整数部桁数、である。かつ 5. 送り側要素の符号無し2進項目の領域長が、2または4バイトである。かつ 6. 送り側要素の符号無し2進項目が、最左端ビットが ON の値を保持している。
19	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64876	以下の条件の場合、正しい実行結果が得られないことがあります。 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ - FUNCTION MAX - FUNCTION MIN - FUNCTION MEAN - FUNCTION MEDIAN - FUNCTION MIDRANGE - FUNCTION VARIANCE - FUNCTION RANGE - FUNCTION SUM 3. 2.の関数に指定されている引数の並びの中に、2バイトまたは4バイトの符号無し2進項目が存在する。かつ 4. 2.の関数に指定されている引数の並びの中に、10桁以上の固定小数点数字項目が存在しない。
20	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64890	以下の条件の場合、数字定数から2進項目への転記に対して、翻訳時に不当なエラーメッセージが出力される、または、正しい実行結果が得られないことがあります。 1. 翻訳オプション BINARY(BYTE)または BINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ 2. 数字定数を2進項目に転記する MOVE 文(暗に発生する MOVE 文も含む)が存在する。かつ 3. 2.の数字定数の数値が5桁である。かつ 4. 2.の転記において「数字定数の小数部桁数 < 受取り側の2進項目の小数部桁数」である。

・ V/L は、障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL 運用環境 (FJSVcbr)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表 3.2 NetCOBOL 運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L	P 番号	現象
1	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG56723	<p>以下の条件の場合、cobfload コマンドの実行で、出力ファイルとして指定したファイルが削除されることがあります</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOL ファイルユーティリティの cobfload コマンドを使用している。かつ、 2. ファイルの拡張(-e パラメタ)を指定している。かつ、 3. 入力ファイルの処理中にオープンエラーが発生した。 <p>※補足 コマンドの実行でエラーが発生した場合、エラー原因を示すメッセージが出力されます。出力されるメッセージから、入力ファイルに対するオープンエラーであるかを確認してください。</p>
2	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG61062	<p>以下の条件の場合、実行時に、ファイルの入出力状態値として、レコードが切り捨てられたことを示す値('04')が設定されないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 可変長のレコード順ファイルを使用している。かつ、 2. 1.のファイルの定義に FILE STATUS 句を指定している。かつ、 3. 1.のファイルに対し、COBOL ファイルシステム(*)を指定している。かつ、 4. 1.のファイルに対し、READ 文を実行している。かつ、 5. 4.で読み込んだレコードの長さが、プログラムで定義した最大レコード長を超えている。 <p>(*) ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。</p>
3	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG62694	<p>以下の条件の場合、実行時に、アプリケーションが停止した状態になることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOL アプリケーションの親プロセスから子プロセスを起動している。かつ、 2. FORMAT 句無し印刷ファイルを定義し、ASSIGN 句に PRINTER 指定をしている。かつ、 3. 2.のファイルに対する OPEN 文を実行している。かつ、 4. 1.の子プロセスを終了させていない状態で、2.のファイルに対する CLOSE 文を実行した。 <p>※補足 Oracle Pro*COBOL を使用した場合、発生条件 1.に該当することを確認しています。</p>
4	V8.0L10 ～	PG63609	<p>以下の条件の場合、実行時に、ファイルの OPEN 文がエラーとなる、または、意図した動作とならないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レコード順ファイルの ASSIGN 句にファイル識別名を指定している。かつ、 2. 同一実行単位内(*1)で、1.のファイル定義に対し、OPEN 文から CLOSE 文までの一連のファイル操作を複数回実行している。かつ、 3. ファイル識別名に対し、以下に示す割り当てを行い、OPEN 文を実行している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － ファイルの追加書き(MOD) － ファイルの連結(CONCAT) － ダミーファイル(DUMMY)とファイル追加書き(MOD)の同時指定 － ダミーファイル(DUMMY)とファイル連結(CONCAT)の同時指定 － いずれのファイル機能も使用しない指定

項番	V/L	P 番号	現象
	V9.1L10		<p>4. 次の OPEN 文を実行する前に、環境変数操作(*2)を行い、割り当てるファイル識別名の値を変更している。かつ、</p> <p>5. 4.のとき、3.と異なるファイル機能を指定した。</p> <p>*1: 同一実行単位内であっても、ファイルの OPEN 文を実行している COBOL プログラムをメモリからアンロード(外部プログラムに対する CANCEL 文の実行を含む)した後、再びロードした場合の操作は該当しません。</p> <p>*2: 同一実行単位内で環境変数を変更する方法は、以下の 2 通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> • COBOL の環境変数操作機能を使用する • 他言語から COBOL プログラムを呼び出す場合、その呼出し前後で環境変数を変更する <p>※補足</p> <p>発生条件のうち、OPEN 文の実行がエラーとならず、意図しない結果となるケースは、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の順序で環境変数を変更した場合、2)の指定に対する OPEN 文でファイルの追加書き機能が有効となります。 <ul style="list-style-type: none"> 1) ファイルの追加書き(MOD)が有効となる指定 2) いずれのファイル機能も使用しない指定 • 次のいずれかの指定を行った場合、続いて指定する環境変数の内容に関わらず、ダミーファイル機能が有効となります。 <ul style="list-style-type: none"> a) ファイル名,DUMMY,MOD b),DUMMY,CONCAT(ファイル名…)
5	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG64106	<p>以下の条件の場合、SEARCH ALL 文で正しく表検索できないことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SEARCH 文(SEARCH ALL)が存在する。かつ 2. SEARCH 文の WHEN 指定に複数の条件を記述している、または、WHEN 指定のキー項目に指定されている添字が多次元である。かつ、 3. 条件の左辺(キー項目)に次のいずれかの USAGE の項目を記述している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — COMP-5(翻訳オプション ASCOMP5 によりみなされたものも含む) — BINARY-SHORT — BINARY-LONG — BINARY-DOUBLE 4. 条件の右辺(比較対象項目)に浮動小数点項目または浮動小数点定数を記述している。

• V/L は、障害が存在する範囲を示します。

3.3 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境(FJSVcblfd)

プログラム修正に関する情報はありません。

3.4 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境(FJSVcbrfd)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表 3.3 J アダプタクラスジェネレータ運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L	P 番号	現象
1	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63737	以下の条件の場合、アプリケーションの終了時に JVM が異常終了する場合があります。 1. Multi-thread モードで J アダプタクラスを使用している。かつ、 2. J アダプタクラスのオブジェクトを明示的に削除せずにアプリケーションを終了している。

・ V/L は、障害が存在する範囲を示します。

3.5 MeFt(FJSVmeft)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表 3.4 MeFt のプログラム修正一覧

項番	V/L	P 番号	現象
1	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG39819	以下の条件の場合、A4 横サイズの範囲しか文字が出力されません。 1. COBOL の FORMAT 句付き印刷ファイルで定義体を使用しないアプリケーションで出力する。かつ、 2. COBOL の I 制御レコードの「用紙サイズ」に「省略」を指定する。かつ、 3. プリンタ情報ファイルの「FORMSIZE」に「OT」を指定する。かつ、 4. プリンタ情報ファイルの「PAPERSIZEX」「PAPARSIZEY」に A4 用紙より大きい値を指定する。かつ、 5. プリンタ情報ファイルの「PRTDEV」に「PS2」を指定し帳票を出力した場合。
2	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG51212	以下の条件の場合、システムからアプリケーションエラーが出力される場合があります。 1. 帳票定義体の行ピッチに以下の値を指定する。 a. インチ指定で、4.56 インチ以上を指定する。または、 b. ドット指定で、3277ドット以上を指定する。または、 c. ミリメートル指定で、115.6 ミリメートル以上を指定する。 2. 帳票を出力した場合。
3	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG51183	以下の条件の場合、プリンタ情報ファイルの次のバーコード描画の調整用キーワードが無効になります。 ・キャラクタ間ギャップ幅指定 ・細太エレメント比指定 ・クワイエットゾーンの描画方法指定 ・ファンクションキャラクタ‘FNC1’指定 1. プリンタ情報ファイルでデフォルト動作以外のバーコード描画調整を指定する。かつ、 2. デフォルト動作指定以外のバーコード描画調整指定した定義体で出力する。かつ、 3. デフォルト動作指定のバーコード描画調整を指定していない定義体に切り替えて出力した場合。
4	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63254	FNP 出力時、lp コマンドで開始ページとして先頭ページ以外を指定した場合、文字が出力されない場合や文字属性が正しくない場合があります。 ・ 現象1

項番	V/L	P 番号	現象
			<p>以下の条件の場合、文字が出力されません。</p> <p>[発生条件]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FNP シーケンスで出力を行う。かつ、 2. lp コマンドを使用して開始ページとして先頭ページ以外を指定する。かつ、 3. 開始ページの一番左上にある文字が日本語で、直前のページの一番右下にある文字が日本語の場合。 <p>・ 現象2</p> <p>以下の条件の場合、文字の属性が正しく出力されません。</p> <p>[発生条件]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FNP シーケンスで出力を行う。かつ、 2. lp コマンドを使用して開始ページとして先頭ページ以外を指定する。かつ、 3. 開始ページの一番左上にある文字が英数字で、直前のページの一番右下にある文字が英数字である。かつ、 4. 文字ピッチ、文字サイズ、書体、太字／斜体のいずれかの属性が一致する場合。 <p>なお、一致する属性は以下のデフォルトで出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 文字サイズ／文字ピッチ:10CPI － 書体:「ゴシック 10」 － 太字／斜体:無し
5	V8.0L10 ～ V9.1L10	PG63410	<p>以下の条件に示す帳票定義体を使用した場合、MeFt の印刷機能が異常終了します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FORM を起動して、帳票定義体を編集集中にする。かつ、 2. バーコード種別が 標準物流、または 拡張物流 のバーコード項目を定義する。かつ、 3. レコード定義を定義する。かつ、 4. 次の計算式の結果が、256 の倍数から 1 引いた数になるよう、項目を定義する。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部がなしの場合] 項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部が共有する場合] 項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 + (項目数 × 3) － [画面帳票定義体プロパティの項目制御部が共有しないの場合] 項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 + (項目数 × 5) 5. レコード定義の末尾に無効項目を追加する。かつ、 6. 2.で追加したバーコード項目のプロパティでアドオンデータを有効にし、5.で追加した無効項目をアドオンデータを保存する項目として指定する。かつ、 7. 定義エラーのない状態で、定義体を保存する。 <p>または、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerFORM を起動して、帳票定義体を編集集中にする。かつ、 2. バーコード種別が UPC-A (UPC バージョン A)、UPC-E (UPC バージョン E)、または EAN-13 のバーコード項目を定義する。かつ、

項番	V/L	P 番号	現象
			3. 次の計算式の結果が、256 の倍数から 1 引いた数になるよう、項目を定義する。かつ、 項目長の総和 - レコード定義の末尾の項目の項目長 + (項目数 × 5) 4. 2. で定義したバーコード項目のプロパティから、アドオンデータを設定し、レコードリストの末尾にアドオンデータのレコードのみ項目を追加する。かつ、 5. 定義体を保存する。

- V/L は、障害が存在する範囲を示します。

3.6 PowerSORT (FSUNbsort)

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表 3.5 PowerSORT のプログラム修正一覧

項番	V/L	P 番号	現象
1	V4.0L10 (V8.0L10) ~ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61267	以下の条件の場合、PowerSORT がセグメンテーション違反で異常終了することがあります。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. 入力ファイルのコード系(icode オペランド)に Unicode 系(UCS-2 形式)を指定している。かつ、 4. 入力ファイルのレコード分離文字が CRLF である。
2	V4.0L10 (V8.0L10) ~ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61365	以下の条件の場合、PowerSORT が「bsrtopen 関数で指定した BSRTPRIM(keyoption2)に誤りがあります。」という不適切なエラーメッセージを出力します。 1. bsort コマンドを使用している。かつ、 2. キーフィールドを指定していない。かつ、 3. テキストファイル指定である。かつ、 4. キーフィールドの操作に'I'と'N'を同時に指定している。
3	V4.0L10 (V8.0L10) ~ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61366	以下の条件の場合、PowerSORT が「オプション(n(key))とl(key) or w(key))は同時に指定できません。」、または「キーオプションの数字の算術的比較と英数字の分割比較は同時に指定できません。」等の不適切なエラーメッセージを出力します。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. キーフィールドに ALL を指定している。かつ、 3. キーフィールドの操作に以下の組み合わせで指定している。 - 'n'と'N' - 'n'と'I' - 'N'と'I'
4	V4.0L10 (V8.0L10) ~ V5.0L10	PG61367	以下の条件の場合、PowerSORT がセグメンテーション違反で異常終了します。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. 定義オプション(-define)を指定している。かつ、 3. 定義オプションのオペランドで簡略名しか指定していない(注)。

項番	V/L	P 番号	現象
	(V9.1L10)		注) 例えば、"-define @KEY" など。
5	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61369	以下の条件の場合、PowerSORT が出力するメッセージ内のエラー番号に誤りがあることがあります。 1. 入力ファイル、または出力ファイルのファイルシステムに富士通 COBOL ファイルシステムを指定している。かつ、 2. 富士通 COBOL ファイルシステムで何らかのエラーが発生した。
6	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61370	以下の条件の場合、PowerSORT が「An necessary BSORT working area cannot be secured.」という綴りに誤りのあるエラーメッセージを出力します。 1. 英語メッセージが出力される環境で PowerSORT を使用している。かつ、 2. PowerSORT が必要とするメモリが割り当てられない。
7	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	—	以下の条件の場合、PowerSORT が「テキストファイルで入力コード系に EBCDIC コード系を指定してます.」という脱字のあるエラーメッセージを出力します。 1. BSORT 関数を使用した C 言語のアプリケーションを作成し実行している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. 入力ファイルのコード系に EBCDIC コード系を指定している。
8	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61372	以下の条件の場合、PowerSORT が「Max output file size is specified with the file system which dose not support it.」という綴りに誤りのあるエラーメッセージを出力します。 1. 英語メッセージが出力される環境で PowerSORT を使用している。かつ、 2. 出力ファイルシステムがシステムの標準ファイルシステム以外である。かつ、 3. 出力可能な最大ファイルサイズを指定している。
9	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61373	以下の条件の場合、PowerSORT が「再編成フィールドの指定に誤りがあります.」というメッセージを出力してエラー終了することがあります。 1. テキストファイル指定である。かつ、 2. レコード再編成機能を指定している。かつ、 3. 再編成フィールドに自己規定値を指定している。かつ、 4. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)である。
10	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61374	以下の条件の場合、再編成フィールドの指定の誤りが検出できず、PowerSORT が異常なレコードを出力します。 1. テキストファイル指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)である。かつ、 3. レコード再編成機能を指定している。かつ、 4. 再編成フィールドの長さが 2 の倍数でない。または、テキストファイル固定フィールド指定のときに再編成フィールドの位置が 2 の倍数でない。
11	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61375	以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常になることがあります。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)である。かつ、 3. キーフィールド、選択フィールド、再編成フィールド、または集約フィールドを指定している。

項番	V/L	P 番号	現象
12	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG61696	以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常になる(集約フィールドが指定した出力形式で出力されない)ことがあります。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式に'd'を指定している。
13	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62207	以下の条件の場合、1つのファイルに出力可能な最大ファイルサイズ、または1つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しないことがあります。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. -output オプションで maxfilesize オペランド、または maxrecnum オペランドを指定している。かつ、 3. PowerSORT が用意した出力バッファ内に格納されているレコードを全て出力した時点でファイルの分割を行う条件となった。
14	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62208	以下の条件の場合、PowerSORT が出力する「キーフィールド(※誤りのあるフィールド番号)の指定に誤りがあります。」というエラーメッセージ内の“※誤りのあるフィールド番号”に誤りがありました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのレコード再編成機能を指定している。かつ、 3. 入力ファイルのレコード再編成機能の指定によりキーフィールドが存在しないレコードとなった。
15	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62210	以下の条件の場合、PowerSORT がエラーメッセージを出力せずにエラー終了(注 1)します。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 3. レコード選択機能を指定している。かつ、 4. 選択フィールドのデータ形式に文字形式 2 桁年号(yyy)を指定している。かつ、 5. 実際の選択フィールドのフィールド長が 2 バイト未満(注 2)である。 注 1) bsortex コマンドの終了ステータスが 1 となる。 注 2) 入力ファイルのコード系が Unicode 系(UCS-2 形式)の場合は 4 バイト未満。
16	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62211	以下の条件の場合、1つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しない(注)ことがある、または「BSORT の処理で内部論理の矛盾を検出しました。(qha5term-72)」というメッセージを出力してエラー終了することがあります。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. -output オプションで maxrecnum オペランドを指定している。かつ、 4. 入力ファイル内にレコード分離文字だけのレコードが含まれる。 注) maxrecnum オペランドで指定したレコード件数を超えて出力される。
17	V4.0L10 (V8.0L10) ～	PG62212	以下の条件の場合、PowerSORT の出力結果が異常(集約フィールドが指定した形式で出力されない)になることがあります。 1. bsortex コマンドを使用している。かつ、 2. マージ機能を指定している。かつ、

項番	V/L	P 番号	現象
	V5.0L10 (V9.1L10)		3. レコード集約機能を指定している。かつ、 4. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 5. -summary オプションで first オペランドを指定している。
18	V4.0L10 (V8.0L10) ～ V5.0L10 (V9.1L10)	PG62213	以下の条件の場合、PowerSORT が「集約フィールド(※異常が検出されたフィールド番号)の内部に不適切なコードが発見されたため、集約処理を中断します。」というメッセージを出力して集約処理が中断されます。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 4. 集約処理の対象とならないレコードの集約フィールド内に空白、またはタブが存在する。

- V/L は、障害が存在する範囲を示します。
- ()内のバージョンは NetCOBOL Enterprise Edition のバージョン・レベルを示します。

索引

	[か]	
互換に関する情報.....		8
	[た]	
追加機能の概要.....		1
	[は]	
プログラム修正一覧.....		23